

となく説得を試みたが、頑として会社は応ずる事はなかった。このままでは自主的に当事者間で解決が難しいと判断し、昨年十二月二六日、大阪府労働委員会に不当労働行為救済の申立を行ない、公の場に引きずり出して、会社の言う事がいかに組合に不利益に値するのかわ問う事にしました。

この七月二四日には、数回の調査を経て、組合主張に沿った和解に至ったものであるが、この間、長時間労働が蔓延する職場の労働条件を、改善するため分会を結成して、会社と協議を行ない、そして結論ができれば協定す

るという当たり前のことができ、今後の分会の活動の前進が果たされたものです。

長時間労働が原因で発病した労働者から相談を受けて分会結成に至った経過があり、昨年一〇月には、労災が認められ、これらの事が会社に対して労働条件の改善を、より一層促す結果となっています。



今年のメーデーで発言するレインボー分会のEさん

### 5・28ストックホルム合意の履行を求める大阪集会 日朝国交正常化へ行動を強化しよう！

昌一金属支部執行委員 〇

去る九月十七日、エルおおさか南館ホール（五階）にて日朝国交正常化の早期実現を求める市民連帯・大阪の集会が行われ執行部三名で参加してきました。

司会は、朝鮮高級学校の無償化を求める連絡会大阪の事務局長をされている長崎由美子さんが務められ進行しました。

まず初めに主催者挨拶を、呼びかけ人である日朝市民連帯・大阪共同代表の有元幹明さんが「二

〇〇二年九月十七日、『日朝ピョニヤン宣言』の発表から十二年もの年月が流れましたが、今こそピョニヤン宣言の崇高



組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

な精神を甦らせ、日朝国交正常化への突破口を切りひらき、その誠実な履行を求める行動を強めなければなりません」と強くアピールされています。

次に「北遺族連絡会・墓参ドキュメント」のDVD上映が約二五分間ありました。北朝鮮の九名のご遺族が、埋葬されている場所や火葬場に足を運ばれている場面が映し出されていました。又、三角山という所には、沢山のお墓も映し出されていました。

次に約一時間位の「歴史的局面を迎えた朝鮮・日本の関係」と題した朝



講師のリ・ビョンフィ氏

鮮大学の文学歴史学部准教授である李柄輝（リ・ビョンフィ）さんの講演が行われました。

日朝ピョンヤン宣言から十二年経過した今年の五月二六日から二八日、スウェーデンのストック

ホルムに於いて日朝政府間協議が行われ、翌二九日には「合意文」が東京・ピョンヤンで同時発表され、「合意文」はその冒頭で「双方は日朝ピョンヤン宣言にのっとりて不幸な過去を清算し、懸案事項を解決し、国交正常化を実現するために真摯に協議を行った」と日朝

政府間協議の目的を明記し、日朝両国が、それぞれ相手側に対して、なすべき七項目ずつの行動措置を明らかにしました。

李柄輝氏は、日朝ピョンヤン宣言に至るまで十二年もの年月がかかったとも言われていました。

そして、大村和子さん

により「五・二八日朝政府間合意」の誠実な履行を求める決議案が朗読され、採択されました。

最後に、閉会の挨拶を日朝市民連帯・大阪共同代表の永久睦子さんで締めくくられました。



熱心に聞くO氏（左）